

TOYOTA MARINE  
**Ocean Style**

Aug 2014  
Vol.3

# The PONAM Traveller



Tomorrow is another ocean.

地球は、ますます、おもしろい。

# ANA ワンダーアース

大人たちに、大人だからこそ味わえる  
本当に豊かな旅を  
お届けするために生まれた  
ANAワンダーアース。  
かつてない  
おどろきと感動をあなたに。  
まだ出会ったことのない地球が、  
どこかで待っています。



ANAワンダーアースのパンフレットご請求・お問い合わせはこちらまで

ナビダイヤル



**0570-070-860**

(全国一律料金)  
※固定電話からは市内通話料金でご利用になれます。  
※IP電話からはこちらへおかけください。(092)720-8356  
受付時間 9:30~18:00 (12/31-1/3を除く)

インターネット

ANA SKY WEB TOUR

**www.ana.co.jp/wonder/**

ANAワンダーアース 検索

旅行企画・実施

**ANAセールス株式会社**

観光庁長官登録旅行業第1656号  
〒103-0027 東京都中央区日本橋2-14-1



ANAセールス株式会社  
**ボンド保証会員**  
一般社団法人日本旅行業協会(JATA)の正会員



旅行業公正取引  
協会 会員

# Contents

## Features

- 006  SPECIAL INTERVIEW レーシングドライバー 木下隆之 氏  
**PONAM makes me free**  
海が与えてくれる自由な時間、  
ポーナムが与えてくれる極上の空間
- 010  **MARINE TALK IN SPECIAL SPACE**  
“Omotenashi” of INTERSECT BY LEXUS - TOKYO
- 014  絶景、HONG KONG NIGHT CRUISE  
HONG KONG MARINE CULTURE REPORT
- 018  **AMAZING CRUISE**  
PONAM 体感試乗会
- 022 **LEXUS × PONAM**  
トヨタにしかできない、Omotenashi Collaboration
- 032 *SAIL TO THE FUTURE* ~笑顔が導くマリンの未来~  
**JAPAN INTERNATIONAL BOAT SHOW 2014 in Yokohama**
- 040 SPECIAL NOTICE  
今秋、ついに登場！トヨタマリンの最新艇

## Regulars

- 004 巻頭言 — Message from TOYOTA MARINE
- 028 PONAM 掲示板
- 030 Sail to Ocean ~試乗会情報~  
10月26日 PONAM 体感東京湾クルーズ
- 031 クルザーコラム クルザーひとりごと 第1回「叩けば分かる！ アルミハルのすごさ」
- 036 Fun to Cruise —私とクルザーの距離感— 株式会社JOB 神谷匠氏
- 038 Life is Beautiful with PONAM  
PONAM of the woman, by the woman, for the woman! — 内藤 教恵 様
- 042 トヨタマリンスタッフに聞く！ 快適なマリンライフを支える、定期点検・ビフォーサービス  
西村一吉氏 & 津田潤一氏
- 044 MARINA DIVIDE —マリーナ探訪— Vol.4 和歌山マリーナシティヨット倶楽部
- 046 Cruise service concierge クルザーの共同所有とは？
- 048 Dealer Pick Up Vol.2 リビエラ逗子マリーナ
- 050 Editor's VOICE

# Message from TOYOTA MARINE

マリンのトップシーズンが到来しました。

抜けるような青空の下、海との対話を楽しみながらボートを操る喜び、海面に鮮やかな航跡を描きながら水平線を駆け抜けていく感動はポーターナムオーナーなら皆経験している魅惑的な世界です。

もっとお客様と海をつなげたい。

より多くの皆様に、マリンライフの魅力や可能性を感じて頂けるよう私達の熱い想いを込めて『TOYOTA MARINE Ocean Style』第3号をお届けします。

昨年、レクサスオーナーにマリンライフの素晴らしさを体験して頂こうとレクサスオーナー様向けにポーターナム試乗会を開催する等、様々な取組みを展開しています。

そこで、今回はレクサスレーシングドライバーの木下隆之さんから日本の海やポーターナムの魅力をお話して頂きます。

また、INTERSECT BY LEXUS - TOKYO で実施された、お客様との懇談会の様子もご紹介いたします。

トヨタはこの秋、3年ぶりの新型プレジャーボートを発表する予定です。トヨタらしい「走り」に拘ったボートです。しかも、ただ速いだけでなく、お客様の多様なニーズに高次元でお応えできる利便性や快適性を実現しました。

既にマリンライフを楽しんでいる方にも、これからマリンライフを楽しもうとされる方にも、新たな海の魅力を感じて頂けると確信しています。

これからもトヨタポーターナムに、ぜひご期待ください！



トヨタ自動車株式会社  
常務役員  
友山 茂樹

海が与えてくれる自由な時間  
ポーナムが与えてくれる極上の空間

# PONAM makes me free

日々過酷なレースの世界に身を置く木下隆之氏。そんな彼が考える海の魅力とは？エンジンという同じ動力を積んだクルマとクルーザー。その両方に長年親しんできた木下氏の言葉に、日本のマリンライフのストレートな可能性を感じた。

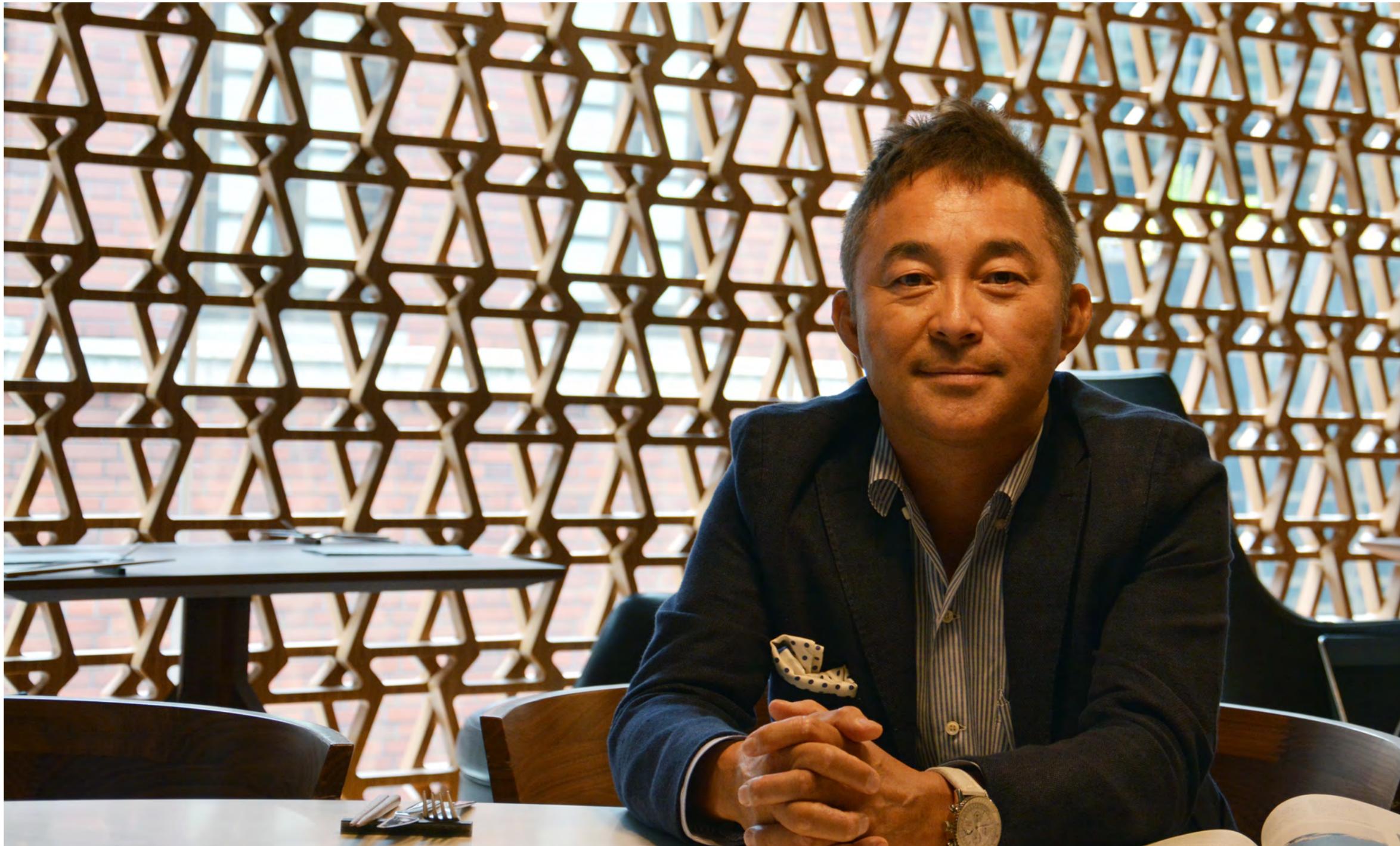
## 祝 2014 ニュルブルクリンク 24時間耐久レース クラス優勝！

### Profile

学生時代からモータースポーツに参戦し、関東学生王者に輝く。1984年にレースデビューした後、全日本選手権をはじめ多数のレースで優勝。スーパー耐久では最多勝利数記録を更新中。ニュルブルクリンク24時間には日本人最多出場を誇り、ベストリザルト記録保持者でもある。レース解説者としてテレビに出演しているほか、日本カーオブザイヤー選考委員や日本ボート・オブ・ザ・イヤー選考委員を務めるなど、現在も幅広く活躍中。

木下隆之オフィシャルサイト

<http://www.cardome.com/keys/op03.shtml>



### 海に「浮かぶ」面白さ

LF A開発ドライバーのひとりでもあり、豊田社長とも親交が深い木下氏。ポーナムの試乗会にもたびたびゲストとして参加されていたので、いつかインタビューをしてみたいと思っていた。

その会場が、木下氏も関わっているレーシングカーのコンセプトモデル「RC F GT3コンセプト」や、木下氏が実際にレースで着用し

たヘルメットや手袋などが展示されたインターセクトバイクレクサス東京。

レクサスをコンセプトにした場所だけあって、木下氏は驚くくらい空間とマッチしていた。

はやる気持ちを抑えながら、まずは木下氏がマリンライフを始められたきっかけについて伺った。

「もともと海が好きで、学生時代はよくサーフィンをしていましたね。動力付きのものということでは、

ジェットスキーが最初です」

以前伺ったところでは、実は豊田社長もマリンライフを始めたきっかけは同じジェットスキー。本当に人の縁というのは不思議だとつくづく思ふ。

「なんといっても浮かぶ感じが異次元でしたね。それから10数年後くらいにクルーザーに乗れるようになったんですが、やっぱり海に浮かぶ楽しさはたまらないですね」

### 「自由」を与えてくれる「海」

「僕の場合、ジェットスキーやクルーザーに惹かれたもうひとつの理由がエンジンなんです。クルマに乗り始めたとき、まるでワープしているみたいどこにでも行けると感じたことがあって。だから、同じエンジンで動くジェットスキーやクルーザーが魅力的に映ったんだと思います。特にポーナムはランドクルーザー





1F カフェカウンター上の吹き抜けに並ぶ絵画。



INTERSECT BY LEXUS - TOKYOのギャラリーに展示されている、コンセプトモデル「RC F GT3 Concept」。



INTERSECT BY LEXUS - TOKYOの外観。独特の形をした木の格子が特徴的な建物だ。

のエンジンをマリン向けにアレンジしたものが積んでありますし、スピードも出るので、風を切って走る感じがよく似ていますね」  
なるほど、まさしくレーシングドライバークラスならではの意見だ。  
「レースにはいろいろな人が携わっているんですよ。だから、その人たちのためにもミスはしちやいない。今でも大きなプレッシャーで

す。レース中に前の選手を抜きたいと思うこともあります。そうそう自由には抜かせてもらえないですね」  
数々の輝かしい実績を残している木下氏です。プレッシャーを感じるということには驚かされた。  
「レースとは違って、海は本当に自由ですね。どこを走っても構わない。これほどの自由は他にないん

気づかされる思いだった。  
「海外でクルージングをしたこともあるんですが、海外の海はあまり変化がない。ずっと同じような海の景色ばかりで、飽きてしまっんです」  
海外でのクルージング体験が、より日本の海の良さを再発見するきっかけになったようだ。  
「何と言っても、陸からは見えない景色が海からだと思えることができ



愛艇でクルージングを楽しむ木下氏。

日本ならではの立体的な海  
「日本って、結構人江が多かったりするんですよ。相模湾とか瀬戸内海とか。蒲郡もそうです。だから、景色がすごく立体的に見えるんです。海岸線をゆっくりクルージングするだけでも充実した時間を過ごせるのは、日本の海の魅力ですね」  
クルージングをしているときを思い出そうように話してくれた木下氏の言葉を聞いてみると、日本ならではのクルージングの楽しみのひとつを

「クルージングをしていて一番の不安は、やっぱり海の上で止まってしまうたらどうしようってことだと思っんです。僕なんかは自分でクルーザーを操船しますから、ちょっとした音が気になる。もしか

してどこがおかしくなったのではないかと」  
特に他のクルーザーでは、跳ねるような走行をするものもあって、余計に不安感が増すのだという。  
「その点、ポーターはトランプルが絶対起きないだろうと思わせてくれるクルーザーだと思います。そこにレクサスの高級感まで兼ね備えていることを思うと、こんなクルーザーは他には無いと思いますよ」  
もちろん絶対なんてないんですけどねと茶目つぷりに話す中にも、ポーターに対する絶大な信頼感がひしひしと伝わってくる。  
「トヨタマリンの人が言っていました。ポーターは、ランドクルーザーを開発する際に徹底的に作りこんでいるんだそうです。きっとそんなトヨタのたゆまぬ努力がポーターに対する信

### ポーターへの絶大な信頼

「クルージングをしていて一番の不安は、やっぱり海の上で止まってしまうたらどうしようってことだと思っんです。僕なんかは自分でクルーザーを操船しますから、ちょっとした音が気になる。もしか

してどこがおかしくなったのではないかと」  
特に他のクルーザーでは、跳ねるような走行をするものもあって、余計に不安感が増すのだという。  
「その点、ポーターはトランプルが絶対起きないだろうと思わせてくれるクルーザーだと思います。そこにレクサスの高級感まで兼ね備えていることを思うと、こんなクルーザーは他には無いと思いますよ」  
もちろん絶対なんてないんですけどねと茶目つぷりに話す中にも、ポーターに対する絶大な信頼感がひしひしと伝わってくる。  
「トヨタマリンの人が言っていました。ポーターは、ランドクルーザーを開発する際に徹底的に作りこんでいるんだそうです。きっとそんなトヨタのたゆまぬ努力がポーターに対する信



頼に繋がっているんだと思います」  
**圧巻のトヨタマリンの  
 サポート**

加えて、トヨタマリンには素晴らしい技術を持ったスタッフによる万全のサポート体制がある。  
 「以前香港でポーナムにトラブルが起きた場合に居合わせたことがあるんですが、15分くらいであつとい



う間に直してしまっただけですよ。あの時はこんなに簡単に直しちゃうのかと本当にビックリさせられました」と私が話すと、木下氏は「それはすごいですね」と驚きながらも、さすがはポーナムという表情をしていた。  
 「やっぱり、万が一何かあっても、今の話のようにすぐに直ってしまうというような環境は、これから日本



のマリライフが発展していくために欠かせない要素ですね」  
 短い時間だったが、木下氏の海への愛情がたっぷりと感じられたインタビューだった。



南青山に現れた「オールバイレクサス」空間

2013年8月に南青山にオープンしたインターセクトバイレクサス東京。「都市とつながり、人と人、人とクルマが交わる」をコンセプトに、そこかしこにレクサスを感じさせるアイデアが詰まった空間が広がっている。

このスタイリッシュな空間に招待されたのは、3月16日の試乗会参加者を含むマリライフへの関心が高い6名の方々。足を踏み入れてまず目に飛び込んでくるのは、奥のガレージに置かれたレーシングカーのコンセプトモデル「RC F GT 3コンセプト」。ここでしか見られないクルマを横目に飲むコーヒーは、クルマ好きにはたまらないはずだ。

# MARINE TALK IN SPECIAL SPACE

## “Omotenashi” of INTERSECT BY LEXUS - TOKYO

2014年5月26日。南青山のINTERSECT BY LEXUS - TOKYOで行われた食事は、ポーナムの試乗会参加者を含む知識、経験が豊富な方たちが語る海の魅力に満ちていた。今回のイベントは、まさにレクサスとのコラボレーションが生み出す、トヨタマリンにしかできない「おもてなし」の大きな可能性を感じさせてくれるものだった。





1Fにある「街一番のコーヒー」をコンセプトにしたコーヒースタンドは、「世界で最高、飛行機に乗ってまで行く価値あり」と評されたノルウェー・オスロ発の老舗コーヒーバー「フグレン」の監修。文化やライフスタイルとしての上質なコーヒーを楽しむことができる。

「空間デザインをお願いしたワンダーウォールの片山正道さんには、クルマを置かず、クルマに乗らなくてもレクサスを感じられる空間にしてほしいと無理なお願いをしたのですが、見事にこんな素晴らしい空間にしてくださいました」と、インターセクトの関係者が言うように、細部に至るまでレクサスを彷彿とさせる洗練された上質な空間を感じさせられる。

「写真で見るとより格好いいね」「こういう素敵な空間は、女性もみんな好きだと思います」

招待客からも自然と笑顔が漏れる。

そこに流れるのは、毎月1回この空間のために選び抜かれたオリジナルミックスの音楽だ。ゆとりや余裕を感じさせる「大人のラグジュアリー」の中にも遊び心のスパイスが効いている。

圧巻なのは階段の壁一面に並んだレクサスの部品だ。本物の部品を全

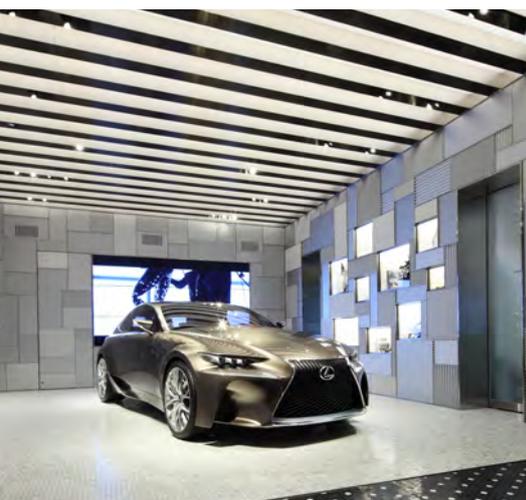
て同じ白に着色し、機械的でありながらもどこか柔らかさのある見事なアートに仕上がっている。

1Fの誰もが気軽に入れるようなおしゃれなカフェとは趣を変え、2Fは「ミスターレクサス」が自宅のリビングに客人を招待するような食事ができる落ち着いたライブラリーラウンジになっている。

「今の時代の東京フード」をコンセプトに、レクサスが発信する東京のリアルな食を味わうことができ。素材の味を活かした数々のフードメニューは、都会での生活をアクティブに楽しむ人々がサードプレイスとして毎日通いたくなる、訪れるたびに新しい食体験ができるようなちょっととした驚きがちりばめられている。

最初に気が付くのは、丁寧に差し出されたおしぼりから立ち上るほのかな香り。気持ちをわくわくさせる上品な香りは、日本の森から抽出した世界的にも希少な「ニオイコブシ」をベースにしたオリジナルだ。

入口の脇にはレクサスのクラフトマンシップに共鳴する若い匠によるさまざまなアイテムが、オシャレなブティックのように飾られている。ここに並んでいるのは単なるセレクトショップ的なラインナップではない。レクサスのコンセプトに基づき





集められた品々は、伝統の技を駆使して作られていながら新しさがあり、先端的なデザインでありながら温かみを含んでいる。そんな、時を越えて愛される、本当にいいものだけがここには並べられている。

「感性をくすぐられますね。若いアーティストの絵があってもいいかも」と、熱心に眺めている参加者の姿が印象的だった。

ライブラリーには代官山葛屋書店がセレクトしたセンスの光る書籍がところどころに並んでいる。クルマに関連した書籍はもちろん、健康に関する書籍など、さまざまなジャンルの本が置かれている。これらの本は、まさに今の時代を映す文化発信

の拠点としてのインターセクトバイクサス東京を象徴するひとつだ。

### 海の魅力に花咲かせ

インターセクトバイクサス東京が醸し出す落ち着いた雰囲気の中、おいしい食事に舌鼓を打ちながら、マリナーライフの話に花が咲く。

「ポーナムの試乗会には2回参加したんだけど、試乗会って面白いね」「実際に乗ってみるとわかりますがポーナムはいいクルーザーですね。サイズ的にもポーナム35くらいがちょうどいい。メガクラスになると置ける場所が極端に少なくなりますから」

「クルーザーは減価償却の際にメリットがあることもあったと聞いたときはびっくりしましたね」

「なので、海外では複数のクルーザーを保有していて、いろいろな用途に利用している方もいるんですよ」

クルーザーを所有することは、もちろんマリナーライフを楽しむためだが、他の活用法を知るだけでも、クルーザーに対する見方の幅が広がるはずだ。

「クルーザーに興味があつて、以前瀬戸内海で乗ったことがあるんです。だから、今日誘ってもらって本当につれたいです」

「私も小さいころは瀬戸内海をよ

くクルージングしていました。瀬戸内海は潮の流れが複雑ですけど、クルージングしていて楽しい海ですよ」

「それに、船は初めての人でもすぐに打ち解けられるのが魅力ですよ。完全なプライベート空間の中で一緒においしいものを食べたり、きれいな景色を眺めたりすれば仲良くなれますから」

昨年試乗会を取材した際、初対面の方ともまるで長年の友人であるかのように、キャンピングで「共同購入から始めてもいいよね」などと盛り上がっていた光景が思い出された。

インターセクトバイクサス東京は1Fも2Fも非常に洗練されたこ

こにしかない空間となっている。気軽に打ち合わせをするにも最適で、特に高感度派を自認する方々には超オススメの場所であることは間違いない。

### INTERSECT BY LEXUS - TOKYO

〒107-0062 東京都港区南青山 4-21-26  
 1F CAFE & GARAGE 9:00-23:00  
 2F LOUNGE & SHOP 11:00-23:00  
 (不定休)  
 TEL 03-6447-1540  
<http://www.lexus-int.com/jp/intersect/tokyo/>  
 ドバイ、ニューヨークにも展開予定

# 絶景

HONG KONG  
MARINE CULTURE REPORT

## HONG KONG NIGHT CRUISE

海外と日本のマリナライフはどこがどう違うのか。日本とは違った香港ならではのマリナカルチャーを追い求めて、今回本誌は初めて海を渡った。

香港ゴールドコーストポートショーへの参加、極上のナイトクルーズ体験など。ポーナムや日本のマリナライフの未来を、香港の夜景とともに考えてみた。

**世界有数の夜景を背にした  
豪華なナイトクルーズ**

コーズウェイベイにあるロイヤルヨットクラブ。ここは香港でも歴史のあるクラブのひとつだ。

ここからいざ世界でも有数の香港の夜景が楽しめるナイトクルーズへ期待を胸に出発。

圧倒されてしまった！

夜景の近さに思わず腰が抜けそうになった。

以前ニューヨークのマンハッタンでナイトクルーズをした経験があるけれど、比較にならないくらい香港の夜景は素晴らしかった。

高層ビルや街並みが発するきらびやかな光が、まるで目の前に迫ってくるかのような感じだ。

そんな美しい夜景を、ポーナム35に乗って海から独り占めできるなんて、これほどの贅沢が他にあるだろうか。

一緒に乗船したゲストたちも、「すごい！」「こんなきれいな夜景を見られるなんて最高！」

「面白い！ これこそナイトクルーズの醍醐味だね！」

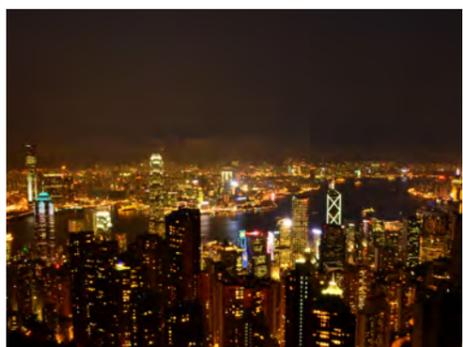
と、感動と称賛の言葉がポーナム35

の船上に飛び交う。

ポーナム35でこの素晴らしい夜景を見ることができたのは幸運だった。ポーナム35のような安定性の高いクルーザーなら、揺れなどに気を取られることなく、優雅な気分がゆったりと夜景を堪能できる。

はたと気が付いた。今回ナイトクルージングにお誘いした皆さんは全員10年以上香港に住んでいるそれなりの方々。そんな方々がこんなに驚いている。

要するに少数でのクルーズというのが、クルージング環境は身近だとはいつつも、あまり意識されていないことに驚かされた。環境そのものには香港は恵まれているけれど、日本にだって開発余地あり。まだまだイケるはずだ、と笑みがこぼれてしまった。



世界に誇る香港の100万ドルの夜景



世界でも有数の夜景をバックに行ったナイトクルージング。迫りくるような豪華絢爛な香港の夜景に、最初から最後まで圧倒されっぱなしだった。



**メガヨットが  
かなり多いんだな...**

取材当日、香港ゴールドコースト  
ボートショーの会場であるゴールド  
コーストヨットアンドカントリーク  
ラブはあいにくの雨模様。天候に恵  
まれない開催になったと思っていた  
のだが、いざイベントが開始される  
と不思議と雨は止み、徐々にお客様  
の数も増え始めた。

ボートショーに参加してまず印象  
に残ったのは、メガヨットやメガク  
ルーザーが多いなあということだ。  
香港に限らず海外のオーナーはメガ  
クラスのヨットやクルーザーを保有  
しているケースが日本と比べて多い  
のは頷けるけど、こんなにも違うも  
のかと。

とは言っても、みんながみんなメ  
ガクルーザーが好きなのわけではな  
く、この日はそんなご家族にもイン  
タビューすることができた。彼らは  
毎年香港ゴールドコーストボート  
ショーに来ているという。

「クルーズそのものを楽しむため  
の小さいボートが好きだね。何より  
も子供が喜ぶんだよ。だからこの  
ポナム35はまさに僕らのマリナラ  
イフにうってつけだよね」。

また、60代の男性は「インテリア  
がとても整理整頓されていて印象に

残ったよ。さすがはメイドインジャ  
パンだね」と。

中には「これは僕にはちょっと小  
さすぎるね」という香港らしい意見  
もあつたけれど、全体としてポーナ  
ムは好印象を残していた。

確かな技術に裏打ちされたものと  
いうのはどんな国でも評価されるん  
だなと、日本人として誇らしく感じ  
た香港ボートショーだった。

**トレッドマーク・  
オブ・サクセス**

香港ではモータースポーツで有名  
なマイケル氏もインタビューに応じ  
てくれた。話を聞いていくにつれて、  
日本と香港の違いがいくつか見えて  
きた。

ひとつは環境。香港では近くにマ  
リーナがあり、そこにクルーザーが



海外のボートショーで見ると、PONAM-35の優美なデザインが一層際立って見える



〈写真右上から〉  
 1. 香港ゴールドコーストポート  
 ショーのメインフラッグ／2. ハー  
 バーのそこかしこに見られるメガ  
 クルーズ／3. PONAM-35の  
 デッキとフライブリッジ／4. ト  
 ヨタマリンプラス／5. 大小さま  
 ざまなクルーズが並ぶハーバー  
 エリア／6. 豪華なゴールドコ  
 ストのロビー／7. PONAM-35  
 に興味津津な来場客

あるという感覚が当たり前のよう  
 で、クルーザー所有がとて身近な  
 こととして簡単にイメージできる。  
 また、香港ではクルーザーを所有  
 していることが「トレードマーク・  
 オブ・サクセス」なのだという。つ  
 まり、クルーザーオーナーは、周囲  
 から「仕事で組める相手」と見られ  
 るそうだ。  
 まさに、ポナムや日本のマリ  
 ンライフの更なる発展のヒントがこ  
 にある。  
 日本ではまだまだ接待などのビジ  
 ネス利用は多いと言えないが、逆に  
 大きなポテンシャルがあるとも言え  
 る。  
 以前、ラグーナ蒲郡で海外の  
 デイラー向けの試乗会を取材させ  
 ていただいたときにも感じたことだ  
 が、素晴らしいインテリアを備えた  
 ポナムほど大切な方をおもてなし  
 するのに適したクルーザーは他に  
 ない。



**Profile**  
 PROMAX MARINE LIMITED  
 DIRECTOR  
 マイケル・リュウ氏  
 PONAMをはじめ、香港でさまざまな  
 メーカーのボートを販売。

インタビューに答えてくれたマイケル氏。日本  
 とは異なる香港ならではのマリカルチャーの  
 話は、新鮮で驚かされるものばかりだった。

日本でも香港のように環境や意識  
 が変わってくれば、間違いなくポ  
 ナムの良さを発揮する機会は増える  
 はずだ。  
 最後に、マイケル氏にとってのク  
 ルーディングについて聞いてみた。  
 「やはり人や街から離れられるこ  
 とだね」  
 マイケル氏の言葉を聞くと、日本  
 でも香港でも「非日常」を優雅に過  
 ごす上で、クルーザーは最も適した  
 ビークルなんだなと実感した。



LFAの前で豊田社長と一緒に記念撮影。どの参加者からも満面の笑みがこぼれ、今回の試乗会が大成功だったことを物語っている。

# AMAZING CRUISE

## ～PONAM 体感試乗会～

2014年3月16日、東京品川のクリスタルヨットクラブで行われた「PONAM体感試乗会」。穏やかな晴天の下、和やかな空気で行われていたイベントは、豊田章男社長のサプライズ登場により、トヨタ流のAMAZINGが花開いた特別なものへと一変した。



右上／颯爽と登場した豊田社長。参加者の驚いた表情を見てサプライズが成功したことを知り、この後どんな話で参加者を楽しませようかとワクワクしているような表情だ。

右／豊田社長のユーモアたっぷりの話に会場は終始笑いが絶えず、和気あいあいとした懇談会だった。

上／レインボーブリッジを背に記念撮影。充実したクルージングに自然と参加者の笑顔がこぼれる。



## トヨタ流「アメイジング」

「実は、本日はレーシングドライバーの木下さんと友山常務以外にも、もうひとりスペシャルな方が急遽会場にかけつけてくれました」とアナウンスすると、いったい誰だろうという表情と、もしかしてという表情が半々。

盛大な拍手に迎えられて登場したのは、ブルーのブルゾンに白のパンツというマリンカラーに身を包んだ豊田社長だ。参加者の表情が驚きに変ったのを見ると、見事にトヨタ流の「アメイジング」がはまったのが分かる。

## 「すぐにポーナムに乗り替えた」

興奮冷めやらぬうちに、早速懇談会がスタート。

まずは木下氏に本日同乗体験を予定しているLFAについて語ってもらった。

「ただ速ければいいというのではダメですね。やっぱり乗っていて気持ちがいいクルマじゃないと。その点、LFAはスーパーカーの中でも世界一乗りやすいクルマだと思えますね」

LFA開発ドライバーのひとりでもある木下氏の言葉にはとても説得

力がある。実際、開発当時にタイプの異なる4人のドライバーによって徹底的に走りこまれたLFAは、非常に高い安定性を備えたクルマだ。

「乗りやすさという意味では、ポーナムも負けず劣らず、乗っていて気持ちがいいですね。ポーナムはアルミハルを採用していて、とても揺れが少ないですよ。クルマでいう「いなし」のような感じですね」という豊田社長の言葉に一同納得の様子。

「本当にそつですね。ポーナムは自動車会社が造ったクルーザーなので安心して乗れますね。特にトヨタマリンはメンテナンスがともしつかりしていますから、故障を心配する必要もほとんどありません」と木下氏。

LFA開発でトヨタのものづくりに携わった木下氏の一言には重みがある。

ポーナムのオーナーである参加者も「以前はFRP（繊維強化プラスチック）製ハルのクルーザーに乗っていたんですが、波切りが悪くて落ち着かないし、怖くなってもFRPには乗りたくないと思っただけです。そんなとき、2013年のポータシヨでポーナムを見て、その後試乗させてもらったときに、びつくりするくらいスムーズに進むことを体感してすぐに乗り替えたんです」



と、自身の経験を踏まえて話してくれた。

ポーナムは初めてクルーザーに乗った人でも実感できるくらい、本当に安定性が高いのだが、この方のように他のクルーザーに乗った経験があると、その特徴がより肌で感じられるはずだ。

### 贅沢なLFA試乗

懇談会の後に実施されたLFA試乗は、プロのレーシングドライバーである木下氏の運転という非常に贅沢なおもてなしだ。

もちろん公道を走行するため、スビード感溢れるドライビングやスリル満点のドリフトなどはできないが、それでもプロのレーシングドライバーに運転してもらええる機会などそうそうない。クルマ好きが聞いたらきつと羨ましがるに違いない。

試乗は本当に限られた時間だったが、LFAから降りてくる参加者の表情はかなり満足しているようだった。

### ポーナム28オーナーも憧れるポーナム35の安定性

LFAの試乗が終わるといよいよ東京湾のクルージングがスタート。清々しい青空が広がる絶好のクルージング日和。スピードを上げたときの波しぶきや海風が気持ちよかったですという声がかれた。

今回の試乗会には、ポーナム28のオーナーが2名参加されていた。ポーナム28も試乗艇であるポーナム35と同じくアルミハルが採用されていて、安定感は抜群だ。そのポーナム28のオーナーが、口々に「安定感が格段にいい」と話していたのが印象的だった。当然大きなクルーザー

の方が安定性が増すのだが、それを差し引いても心から感動している二人の表情がポーナムの高い性能を物語る。

FRPのクルーザーに恐怖を感じていたというそのうちのひとりも、まるで全く別の乗物に乗っているかのように「恐怖感が全くない」と終始楽しんでいった。

### 「船舶免許を取るしかない」

「船舶免許を取るしかないなあ」。クルージングを楽しみながら、機能や燃費などについてスタッフにいろいろと質問をしていた参加者が、クルージングも終わりに近づいたところにこんな言葉を漏らした。

このような言葉が自然と出てきてしまうのも、ポーナムの魅力だ。

素晴らしい乗り心地はもちろん、クルージングだけでなく操船体験ま

でできたのはめったにない経験で、実際にハンドルを握ってポーナムを操船することで、自分がポーナムオーナーとなってクルージングを楽しんでいるイメージが明確になったに違いない。

豊田社長が「ポーナムは初めての人にもやさしいクルーザーなんです」と語っていたように、こんなに簡単にマリナイフを楽しめるのかと実感できたのも、またいい経験となったはず。

そして、それらを支えているのはやはり確固たるトヨタマリンの技術なのだ」と改めて感じた試乗会だった。

### 百間は一乗にしかず

別の試乗会でも「乗ると欲しくなっちゃうね」と言っていた方がい

たが、やはり試乗会の醍醐味は実際にポーナムに乗って肌で感じることに改めて思う。

まさに「百間は一乗にしかず」。

まだクルーザーに乗ったことがない方は、ぜひ騙されたと思って試乗会に参加してほしい。間違いなく新たな世界が開けるはずだ。

P30に次回の試乗会情報を掲載、早い者勝ちです！

クルーザーの試乗会としか聞いていなかったから、豊田社長がサプライズゲストで登場したときは本当にびっくりした。豊田社長からLFA開発やマリナライフについて直に聞くことができたのはいい経験になった。

クルージングだけじゃなく実際にポーナムを操船させてもらったのもよかった。初めてだったからうまくいくか心配だったけど、思ったより簡単に十二分に楽しむことができた。

## 初めてでも操船を楽しめた



## 海外みたいなマリナライフが楽しめたらいい



初めてアルミハルのクルーザーに乗るので、今日の試乗会はとても楽しかった。実際に乗ってみると本当に揺れが少なく、天気も最高だったからすごく楽しかった。

普段は海外で友人のクルーザーに乗せてもらったりしているんだけど、日本でも海外みたいなマリナライフが楽しめたらいいよね。クルージングだけじゃなく、ダイビングをしたり船上でワインを飲んだりできると、日本のマリナライフももっと充実してくるんじゃないかな。

ポーナム35は40フィートクラスの安定感があると思う。クルージングだけじゃなく、どんなシーンにも使えるようにできているクルーザーだね。操船体験をさせてもらったけれど、他のクルーザーに比べて操船も簡単だと思う。

マリナライフを楽しむ環境がもっと良くなっていくといいね。ポートシヨも今よりもっと規模が大きくなって、豊洲と東京ビッグサイトでやるようになれば、マリナ業界も活性化していくと思う。

## 40フィートクラスの安定感



Voice of Guest

## ポーナム35でもカスタマイズして楽しみたい



今のポーナム28はいろいろとカスタマイズしているんです。だから季節に関係なくクルージングを楽しめています。

いつかはポーナム35に乗れるといいですね。ポーナム35で今より遠くまでクルージングしてトロリングを楽しむのが夢なんですよ。もちろん、ポーナム35に替えたら今みたいにカスタマイズして、思う存分楽しみたいです。

# LEXUS × PONAM

## トヨタにしかできない、 Omotenashi Collaboration

その日、品川のクリスタルヨットクラブに集まったのは、  
普段レクサス渋谷の洗練された空間で、最高のおもてなしを受けているオーナーの方々。  
レクサスでのドライブとは異なる東京湾でのクルージングに、はじめは少し緊張気味だったが、  
いざクルージングが始まると一気に解放感あふれる笑顔に変わった。  
まさにトヨタのグループ力を最大限に活用した「おもてなし」に満ちたクルージングだった。

### レクサス×ポーナム

初夏の陽気に包まれたクリスタルヨットクラブ。今日そこを訪れたのは、上品な佇まいが印象的なレクサス渋谷のオーナーの方々だ。

恵比寿や代官山などの个性的な街からも近く、常に最新の情報・文化を発信し続ける渋谷。そんな街に位置するレクサス渋谷は、レクサスの魅力と最高の安らぎを提供し続けながらも、新たな取り組みに意欲的な場所だ。

レクサス渋谷にとって初の試みとなる、今回の東京湾クルーズもそのひとつ。しかし、洗練されたラウンジを覗いてみると、レクサスとポーナムのコラボレーションを見ることが出来る。

ラウンジにはポーナム35の模型と



レクサス渋谷のラウンジに飾られたPONAM-35の模型とポスター。



高級感漂うレクサス渋谷のラウンジ。

ポスターが展示され、カタログも完備されていて、気軽にポーナムの話ができるようになっていく。

今回の試乗会は、レクサスとポーナムというトヨタのグループ力を活かした、まさにトヨタにしかできないイベントだった。

### ピンククラウンともコラボ

今回の試乗会に招待されたレクサスオーナーの方々、クルージングになじみがない方が多く、またそれぞれ初対面ということもあって、待合室は少し緊張した空気が流れていた。

いざポーナムに乗船するために桟橋への移動が始まると、招待客の期待と緊張もいよいよピークに。鮮やかなピンクのポーナム35。鮮





栈橋へと向かう参加者たち。これから始まるクルージングに期待と緊張が入り混じった表情をしている。

やかなピンクのラインが一際目を引く。実は、話題になったピンククラウンと同じ色をあしらったポーナム35なんだとか。まさにトヨタのグループ力が活かされた今日の試乗会を象徴しているようだ。

### 笑顔はじけるクルージング

吸い込まれそうな青空の下、東京湾クルージングが始まると、参加者の顔には自然と笑顔が見られるようになった。

「上からの眺めもいいけど、今日



ピンククラウンと同じ色をあしらったPONAM-35。鮮やかなピンクがいいアクセントになっている。

は天気がいいからデッキの方が気持ちいいね」

「こういうクルージングに参加するのは初めてですけどすごく楽しい！」

子供のように満面の笑みではしゃぐ参加者を見てみると、クルージングの楽しさを語るのに余計な言葉は必要ないときえ感じる。

「クルーザーに乗ったのなんて初めてだからわからないけれど、こんなに揺れないものなんだね」

「以前、別の船に乗ったことがあるんだけど、そのときはガソリンの臭いが気になったのに、ポーナムはデッキにいてもガソリン臭さがないからびっくり！」

いろいろな方が口々に言っていたポーナムの特徴は、やはり今回も耳にした。改めてポーナムって本当にすごいクルーザーなんだなあと思感する瞬間だ。

「すごい！ 橋をこんな角度から見たのなんて初めて！」

「下から見上げると、いつも目に見えている橋が全く違ったものに見える」

東京湾クルーズの見どころのひとつでもある、東京ゲートブリッジとレインポープリッジ。その下をくぐりぬげる時の大迫力の光景は、クルージングでしか体験できない醍醐

味。

デッキにいた参加者も、フライブリッジにいた参加者も、一様に天を見上げ、感嘆の声を上げていた。

クルージングの後半になると、トヨタマリンのスタッフにポーナムのエンジンや燃費、トヨタならではのさまざまな技術について、熱心に話をされている方もいて、みんなポーナムやクルージングの魅力にやられたという印象だった。

### こんなイベントがあったらまた参加したい

満足した表情でクルージングを終えた参加者に試乗会の感想を聞いてみた。

「妻とレクサスでいろいろなところに出かけるのも最高だけど、たとえば年に1回程度、定期的なこうい



PONAM-35から眺めるレインポープリッジ。



勇ましくたたずむ東京ゲートブリッジ。



クルージングを終え、満足げな表情を浮かべる参加者たち。

「イベントがあるといいよね」  
 「すごく楽しかった！ また参加  
 したいですね！」  
 「娘に連れられて参加したんです  
 が、子供にもどっぴりみたいになっ  
 った。今度は操船にもチャレンジ  
 してみたいですね」  
 参加者のいきいきとした表情が、試  
 乗会の成功を雄弁に物語っていた。  
 クルージングを堪能した後は、豪  
 華なランチのおもてなし。印象的  
 だったのは、クルージング前は参加  
 者同士の会話もあまり見られなかつ  
 たのに、ランチのときはまるで長年

の友人と食事を楽しむように、笑顔  
 で会話を楽しんでいたことだった。  
 以前、クルーザーのオーナーが、  
 初めての人とても一緒にクルージン  
 グしたりすると、一気に親しくなれ  
 ると言っていたけれど、その光景を  
 目の当たりにすると、クルージング  
 の持つ力のすごさに圧倒されてし  
 まった。  
 参加者の笑顔を見れば、今回の試  
 乗会が大成功に終わったことは明ら  
 かだ。まさにレクサスとポーターと  
 のコラボレーションだからこそもた  
 らされた結果だったに違いない。



### レクサス渋谷

〒153-0042 目黒区青葉台 3-1-1  
 TEL : 03-3464-0511  
 FAX : 03-3464-3600  
 OPEN : 9 : 30 ~ 18 : 00 (火曜日定休)



美しい時間が始まる。

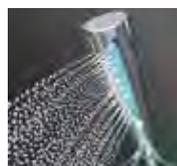
## BATHROOM SYNLA



浴槽周囲を断熱材でしっかり覆い湯温が冷めにくい「魔法びん浴槽」



W断熱構造でヒヤッとせず柔らかい踏み心地の「ほっカラリ床」



水滴に空気を含ませ、浴び心地と節水を両立した「エアインシャワー」

# TOTO

www.toto.co.jp  
お客様相談室 0120-03-1010 (9:00~17:00 夏期休暇・年末年始を除く)



※写真は撮影用小物、オプションパーツ等を含む特別仕様艇です。



さらに深化した美しさ。さらに進化した快適性。

PONAM-35swは、従来のドライブアシストにバーチャルアンカーシステムを追加し、トヨタマリン独自の操船支援システムをさらに充実させています。

インテリアには木目調デザインを採用するなど、すべてにこだわり抜きました。

あなたを待っているのは、さらなる上質な「海の遊び」です。

THE PREMIUM OF PREMIUMS

35  
SW

Premium Cruiser  
PONAM-35sw

試乗会の開催日などのご案内は、トヨタマリンホームページまたは、フリーダイヤルにてお問い合わせください。

トヨタ自動車株式会社 新事業統括部 トヨタマリン営業所 〒443-0014 愛知県蒲郡市海陽町2丁目1番地  0120-532-451 [www.toyota.co.jp/marine/](http://www.toyota.co.jp/marine/)

PONAMの「女性の会」ができるといいですね。

——— PONAM-28G II オーナー  
(女性・PONAM歴2年)



私が理事を務める「NPO 愛知ネット」では、東日本大震災を受け、気仙沼で復興支援活動を行ってきました。

トヨタ自動車さんからは、「クイックデリバリー」という車の贈呈もしていただきました。

現在は、新たな支援活動を行うための新しい会の設立に向けて準備中です。  
ウェブサイト URL : <http://www.npo-aichi.or.jp/>

——— PONAM-28 II オーナー  
(女性・PONAM歴1年)



海が大好きなんだと感じる。特に自然の恵みを沢山受けた真っ青な海とその風に勝るものはない。夏の地中海がいつもそんな欲求を満たしてくれているが、日本の夏の海も重要な時間を満たしてくれている。

人間はみんなそうだと思うが、私も時々海のような、自分の仕事と全く別世界の時間を過ごしたくなる。

昨年、そんな大切な時間のパートナーを選んだ。

日本の気候、日本の海には、やはりその風土にあった時間とボートがあると思う。

気軽に近くの島へ、そして日本固有のリゾートへ。そんな欲求をすぐに満たしてくれるのが今の PONAM-35 である。

——— PONAM-35 オーナー  
(男性・PONAM歴6年)

# PONAM

# 掲示板

**情報大募集!**

「こんなオススメのスポットがありますよ」、「一緒にマリライフを楽しみませんか」などマリンに関する情報の他、「こんな活動をしています」というオーナー様自身の情報まで幅広く募集しています。ぜひ情報をお寄せください!

女性っ気をもっと出さない!

息子が医師なんですが、意外とクルージングを楽しんでいる人は女医さんが多かったですよ。

——— PONAM-28L オーナー  
(男性・PONAM歴13年)

PONAMをビジネス活用するための会をつくりたいね。

——— PONAM-28L オーナー  
(男性・PONAM歴13年)

自船 PONAM-45 の写真や、カジキの釣果データ概要(日付、海域、乗船者名等)を記載したカジキ検量時の写真を、ゲストの乗船記念に図書カードとして配布しています。

——— PONAM-45 オーナー  
(男性・PONAM歴8年)



## What's PONAM 掲示板?

「PONAM 掲示板」は、PONAM オーナーの皆様からさまざまな情報をご提供いただき、他のオーナー様などへの情報発信や情報共有などを目的としたページです。

お問い合わせ  
情報提供は  
編集部まで

[info@cruiser.jp](mailto:info@cruiser.jp)



SAIL TO OCEAN  
~試乗会情報~

豊かなマリライフの第一歩！

# PONAM体感東京湾クルーズ

## 少しでも気になったら、それが参加の合図です！

クルージングに興味はあるけれど、きっかけがなくて乗ったことがない、他のクルーザーに乗ったときあまりの揺れに怖くなってそれ以来乗っていないなど、クルージングから離れてしまっていないですか？

「PONAM 体感東京湾クルーズ」は、そんな方々に本当の海の楽しさ、クルーザーの面白さを知っていただくための試乗会です。

レインボーブリッジ、東京ゲートブリッジ、羽田空港を離発着する旅客機など見どころが多い東京湾で、クルージングだけでなく操船体験も予定しています。

「面白さは過去に参加していただいた方々の笑顔が証明してくれています。私も乗るたびにPONAMのすごさを感じています。もちろん今回も参加させていただきます！」(本誌編集長)

少しでも気になったら、それが参加の合図です。ぜひクリスタルヨットクラブでお会いしましょう！

## 参加者大募集！

参加のお申込み・お問い合わせは下記 Web サイトまで

<http://cruiser.jp>

## Event Overview

名称：PONAM体感東京湾クルーズ  
主催：トヨタ自動車株式会社 新事業統括部 マリン事業室  
協力：株式会社ルート・アンド・パートナーズ  
開催日時：2014年10月26日(日) 10:00~14:00  
※天候不順等の場合は2014年11月2日(日)に順延  
会場：クリスタルヨットクラブ  
〒140-0002 東京都品川区東品川2-3-16 シーフォートスクエア1F  
募集人数：5組10名程度  
備考：応募者には詳細を個別にご連絡いたします。

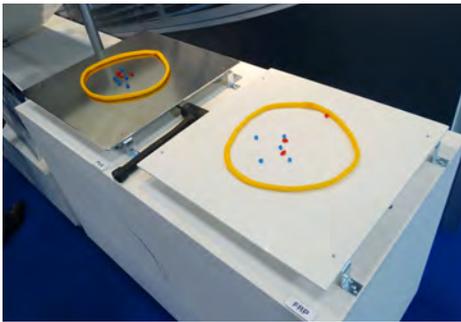
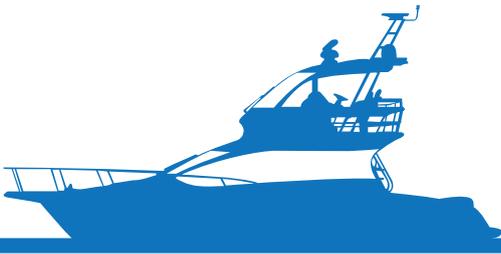


# クルーザー ひとりごと

本誌編集長  
増淵 達也

第1回

## 「叩けば分かる！ アルミハルのすごさ」



ハンマーで叩いて、アルミとFRPの衝撃吸収性の違いを知るための簡易実験装置。

こんにちは。オーシャン・スタイル編集長の増淵達也です。今号から「クルーザーひとりごと」と題したコラムを担当させていただきます。オーシャン・スタイルの取材やこれまでの経験などから、クルーザーに関するいろいろな情報をお届けできればと思っています。

記念すべき第1回は、ポーナムの代名詞ともいえる安定性を支えているアルミハル。ちなみに、ハルとは船底の部位を指します。

ポーナムに使用されているのは、数あるアルミ合金の中でも特に高い強度を誇るA5083です。このすぐれた素材を使用することで、波からの衝撃や振動、ノイズをいち早く吸収し、ポーナムの快適なクルージングを実現しているのです。

とは言っても、なかなか専門的な言葉ではわかりにくいですよ。そ

こで、もっと直感的にアルミハルのすごさがわかるものをご紹介しますと思います。

それがこちら（左上の写真）。3月に横浜で行われたポートショーで、トヨタマリンプラスに設置されていたちよつとした実験装置です。

手前のホワイトがFRPという繊維強化プラスチック。奥のシルバーがアルミです。黄色いロープの輪の中に置かれているのはビーズです。

この2つをハンマーで叩いてみると、その違いは一目瞭然。FRPに置かれたビーズは、大きく跳ねて黄色い輪から外れたり、床に落ちたりしてしまいます。対してアルミはほとんど跳ねることがなく輪から外れることも少ないのです。

つまりそれだけアルミの方が衝撃をより吸収しているということになります。

もしかしたら、これをお読みになられている方の中には、ポートショーで実際に叩いてみた方もいらっしゃるかもしれません。

すぐくシンプルな実験装置ですが、ハンマーを波に、ビーズをポーナムに乗っている自分に置き換えてみてください。

いかがでしょう。波が船体にあたったときに、乗っている私たちに



上 / JAPAN INTERNATIONAL BOAT SHOW 2014 で展示されたアルミハル。

左 / PONAM の安定性を支えるアルミハル。



衝撃が伝わりにくいということが分かると思います。

実際、試乗会でポーナムに乗った方の多くが「他のクルーザーより揺れが少ない」や「想像していたより揺れない」と語っています。

もっとすごさを知りたくなったら、ぜひポーナムの試乗会に参加してみてくださいね。



# SAIL TO THE FUTURE

～笑顔が導くマリンの未来～

**JAPAN INTERNATIONAL BOAT SHOW 2014  
in Yokohama**





2014年3月6日～9日の4日間、パシフィコ横浜と横浜ベイサイドマリナで開催された国内最大の国際ボートショー「JAPAN INTERNATIONAL BOAT SHOW 2014」。4日間で約35,000人が来場され、連日にぎわいを見せていた会場の様子は、日本のマリン業界の更なる発展を期待させた。



## たくさんの人でにぎわう トヨタブース

パシフィック横浜のトヨタマリンのブースがあるのは、会場のちょうど中央奥。TOYOTAと書かれたドーナツ型のバルーンが浮かび、ポーナム28Lとポーナム28IIIが展示されており、カップル、家族連れ、友人知人同士など、実にさまざまな方が数多く訪れていた。

まず目を引くのは、まさにお客様をお出迎えするように置かれた豊田社長の等身大パネル。その横では、豊田社長のマリンに対する思いやマリンライフの魅力を紹介する映像が流れていて、思わず仕事を忘れて見入ってしまった。

インタビューに協力してくれた方の多くは、ポートショーに何度も足を運んでいるそうで、中には10回以上来ているという方もいた。

横浜、ベイサイドマリーナは屋内のパシフィック横浜とはまた違った雰囲気、40隻以上のクルーザーが停泊している様は壮観だ。トヨタマリンもポーナム35を展示し、たくさんの方がキャビンやフライブリッジなどを見学していた。

## みんなやっぱり海が好き

インタビューに答えていただいた

方の中から、特に印象的だった意見をいくつかご紹介。

「マリンスポーツが好きで、友人とダイビングをしています。今回は3回目なのですが、毎年活気があって楽しいですね」

「もう40年近くマリンスポーツを楽しんでいます。マリンスポーツをやると、夫婦円満になるんですよ」

「フィッシングが趣味なので、ポートショーでは毎年釣りを意識して見て回っています」

「毎年クオリティが高くなっていくと感じるね。海が好きで今回は3回目だけど、新艇を中心にしているよ」

「ポーナムを持っているんだけど、ポートショーは今回が初めて。いろいろなものが見られて楽しい」

「船舶免許を取ったときに乗ったのがポーナム。今回は2回目だけど、最初にポートショーに来たのはもう15年くらい前になるね。久しぶりに来たら華やかになっていてびっくりした。展示してあるポーナムの船体も美しいね」

「ピンク色のボディは他ではなかなかないですね。妻も可愛らしいって言っていました。あと、デッキにも上がったから子供も大喜びで、一緒に来てよかったと思います」

「毎年ポートショーには来ていますね。父が漁師なので小さい頃から船に親しんでいました。今の子供たちや若い人たちにもっと船のことを知ってもらえるといいんだけどね」

多くの方にインタビューして感じたことは、やはりみなさん海が好きなんだなということだ。

期間後半の土日にはお子様連れのご家族の来場も目立った。デッキやフライブリッジに上がって楽しそうにはしゃいでいる子供の姿が印象的だった。

マリンカルチャーの裾野を広げていくという意味でも、ポートショーのようなイベントはとても重要だと感じた。

## トークステージで ポーナムの魅力を伝える

クルーザーなどの展示だけではなく、特設ステージでさまざまなトークショーやセミナーも開催されていた。

「僭越ながら、私も「トヨタ・ポーナムの魅力」と題した講演をさせていただきます」

これまでのオーシャン・スタイルの取材などから、やっぱりポーナムっていいクルーザーだなあと実感したアルミハルの乗り心地の良さを中心に話をした。

多くの方に耳を傾けてもらえただけでなく、途中でオーシャン・スタイルも回して見てもらった。熱心に中身を見てくださった方もいて、充実した講演になったと思う。

限られた時間ではあったが、ポーナムの魅力をコンパクトに伝えられるいい機会だった。

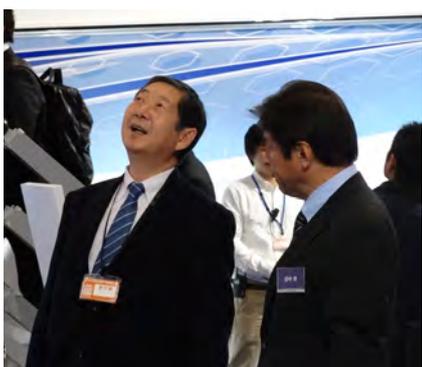
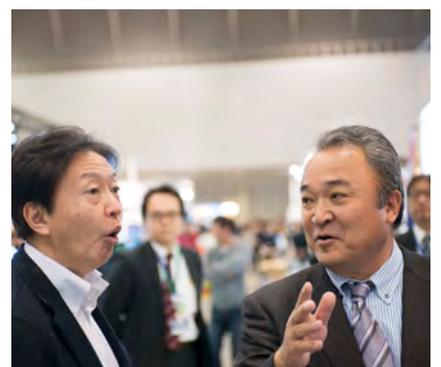
## 来年はぜひあなたも！

今回のジャパンインターナショナルポートショー2015も、3月に横浜で開催される予定だ。

今年のポートショーよりさらに良くなるという話も聞かえてきている。

今年来場された方はもちろんのこと、しばらくポートショーに行っていない方や初めて参加するという方にも十二分に楽しめるイベントになっているはずだ。

来年はぜひポートショーに参加してみたい？ もちろん私も必ず行きます！





FUN  
TO  
CRUISE

Love the MARINE!  
Trust for the PONAM!

クルーザーオーナーに聞く  
「私とクルーザーの距離感」

これまでに数多くのクルーザーに乗ってきた  
神谷匠氏。そんなクルーザーの知識と経験が  
豊富な神谷氏が話してくれたのは、海への思  
いと、ポーンナムに対する信頼だった。

NTP GAME FISH CLUB



SINCE 2010

File.4

神谷 匠

Takumi Kamiya

株式会社 JOB  
代表取締役社長



## マリンライフへの 小さなきっかけ

船内にいるかのような丸窓が特徴的なNTPマリーナ高浜（愛知県高浜市）のクラブハウス。そこに現れた温和な表情が印象的な神谷氏は、他艇も含めてさまざまなクルーザーに乗ってきたまさに海のベテラン。そんな神谷氏からどんなマリンの話が聞けるのか、インタビュア前から楽しみだった。

「小学生の頃、通学ルートに小さなマリーナがあったんですよ。いやあ、そこでボートがクレーンで吊るされている姿を見ましてね。びっくりしたことを覚えていますよ」



「ここに座るとワクワクするね！」と、愛艇の操船席に座る神谷氏。自慢のおもちゃを見せるときの子供のような表情が印象的だ。

幼かった神谷氏にとっては、きつとボートがとても大きなものに映ったのだと思う。日常の風景の中にあつたそんな刺激的な光景が、神谷氏をマリンライフへといざなうきっかけだったようだ。

## 童心に返れる瞬間、 それが海と船

現在は自身4艇目のポーナムとなる「第2こうなん丸（ポーナム28）」を保有している神谷氏。はじめは他メーカーのクルーザーだったという神谷氏が、最初にポーナムに乗り替えたのは13年ほど前。それ以来トヨタマリンにとっぶりなんだとか。

「僕にとつてクルーザーは、子供にとつてのおもちゃみたいなものなんです。見て触っているだけで楽しいんですよ。もちろん、オートフラップとか、いろんなところにこだわりを持ちたいと思いますけどね」

楽しくて仕方がないという神谷氏の話しぶりを見ると、本当にマリンが好きなんだなあと感じる。

実際、トローリングでは大物を釣り上げるほどの腕前の神谷氏だが、「釣りだけが好きというわけじゃなく、海そのものが好きなんです」と話していたように、操船したり、クルージングをしたり、マリーナで過ごす時間を満喫したり、いろいろな



マリーナにいるだけで自然と笑顔になる神谷氏。

楽しみ方をされているようだ。

少しくらい海が荒くても、子供がジェットコースターを楽しみたいにそのスリルもまた楽しいと話す神谷氏は、筋金入りの海好きのようだ。

また、神谷氏は福利厚生の一環としてもポーナムを活用している。海の楽しさを一緒に仕事をする社員たちにも体感してほしいという神谷氏の人柄を感じさせる。

## やはりアルミハル！

「いろいろ乗ったけど、やはりアルミハルだね」

これまでに国内外のさまざまなクルーザーに乗ってきた神谷氏が、特に強調していたのがアルミハルだった。

「今まで乗ったクルーザーの中で一番！ 2クラス上のクルーザーくらい安定度があるね！」

ポーナムに乗ったほとんどの方が、ポーナムの揺れの少なさ、安定性の高さを評価しているのを何度か聞いてきたが、さまざまなクルーザーに乗った神谷氏が話す、その特徴がさらに際立って見える。

神谷氏の表情を見ると、すでにメガクラスのポーナムでのマリンライフが頭の中に描かれているようだった。

## トヨタも メガクルーザーを！

最後に、これからのトヨタマリンに期待することを伺った。

「ぜひメガクルーザーも扱ってほしいですね。今はポーナム35が最大だけど、もっとラインナップを増やすためにも35以上のクラスのポーナムをぜひ造ってほしいです」



カジキを釣り上げた神谷氏（写真中央）とクルー。大物を釣り上げた喜びに満面の笑みを浮かべる。



愛艇「第2こうなん丸」と神谷氏。

# Life is Beautiful with PONAM!



**仲間**とともに自然豊かな三河湾でのクルージングを満喫している内藤教恵さん。終始いきいきとしたインタビュは、ポナムやマリナーライフが与えてくれる数多くの人生の豊かさに満ちていて、思わずこちらまでワクワクさせられてしまうほど楽しい時間だった。

## 人生の節目

蒲郡のラグナマリーナ（愛知県）に現れた教恵さんは、その日の心地よい澄んだ青空のように明るく快活な女性だった。早速、トヨタマリンのショールームでインタビューを開始。

「3年前に勝浦にロングクルージングをしに行ったの。そこに私もうひとり女性がいてね。クルージングした先で『いやあ、女性でよくここまで来たな』って驚かれて。それがきっかけで船舶免許を取りに行ったのよ」

## 仲間と楽しむ充実したクルージング

は、当時を振り返って嬉しそうに話す。

還暦を迎えるにあたり、もっと人生を楽しもうと思ったときに出会ったのがクルーザーだったという。それに、ラグナマリーナにいるトヨタマリンのスタッフから、ボート遊びの楽しさをいろいろと教えてもらっていたことも大きかったそうだ。「女性のほうが素直に指導を受けるから、覚えが早いよ!」

今では慣れた手つきでポナム28IIを月に1度は操船する教恵さん

2013年の9月に今のポナム28IIに乗り替えたという教恵さん。「次のマリナーシーズンが待ち遠しかったわね!」とワクワク感たっぷりの表情がとても印象的だった。普段は三河湾で仲間の方々と楽しく過ごしているそうだ。「三河湾や近くの海をみんなとデイクルージングするのが楽しみのひとつ」

中を覗かせてもらったのだが、ポナム35SWを思わせるような温かみのある空間だった。

## ポナムが与えてくれたこと

「ポナムに乗ってよかったことは、共通の趣味で話せる人や、いい友人が増えたこと!」と言い切る教恵さん。

もっと人生を楽しみたいとの思いから始めたクルーザーが、本当に多くのものをもたらしてくれたようだった。

「共通の趣味を持つ人が増えたから、今までと違って遠慮したりせず、積極的にいろんな人と話をするようになったの」また、クルーザーを持って充実したマリナーライフを楽しむようになったことで、むしろ働くことに張り合いが持てるようになったという言葉もとても印象的だった。「もっといろんな方をお招きしたいわね!」

ポナムが教恵さんの人生のアクセントになっていることは間違いないさそうだ。

きつと格別なものに違いない。

## 停泊させた船内でも楽しみたい

「天候があまり良くないときでも、気軽にビジターベースなんかで、船内で楽しめるようなことがあるといいわね」

楽しげに話す教恵さんを見ていると、本当に海が好きなんだなあと感じる。

教恵さんがそう思うのも、まさにポナムだからこそ。

以前駿河湾に停泊中に、波が荒いときがあったのだという。そのときにポナムがあまり傾いて見えなかったことに驚いたらしい。まさにポナムが誇るアルミハルのなせるわざだ。

「床やインテリアをウッド仕様にしてはいるんだけど、そこにいても落ち着くよ!」

実際に教恵さんのポナム28IIの



愛艇AMICAL IIIの前で誇らしげな表情を浮かべる教恵さん(写真中央)。左がご主人、右はトヨタマリン福井さん。



AMICAL III (PONAM-28 II) の船内。温かみのある木目が印象的だ。



AMICAL IIIのキャプテンカード。



「こんな感じがしらね」。ウキウキした表情でハンドルを握る教恵さん。その貫禄たっぷりの姿からは、華麗に操船する姿が目に見えそう。

# Special Notice

## 今秋、ついに登場！ トヨタマリンの最新艇

# 31

Sport Utility Cruiser  
PONAM-31

2014年10月、いよいよお披露目となる最新艇ポーナム31。トヨタらしく、さらに走りの良さを追求し、スピード感あふれるクルーザーに進化した。

スポーティなクルージングやフィッシングはもちろんのこと、キャビンでゆったり過ごすラグジュアリーな時間にもこだわった「スポーツユティリティクルーザー」という新しいカテゴリーの誕生だ。

ポーナム31で特に注目すべき点は、新開発高性能ディーゼルエンジンを搭載することで実現した高速航走。

単に早くなっただけでなく、ポーナムの特徴である安定性ももちろん向上している。ポーナムの代名詞とも言えるアルミハルはこれまで高い剛性を誇ってきたが、ポーナム31ではその剛性をさらに向上させたことで、高速でも安定した航走が可能となっているのだ。

ポーナム31のもうひとつの特徴は、より洗練されたデザイン。ポー

ナム35のハイセンスでエレガントなデザインを踏襲し、ダイナミックな流線形のラインが特徴的なクルーザーに仕上がっている。

キャビンは明るく広々とした空間が確保され、設備の配置等もより機能的になっている。

ひとつのプライベートスペースとして、マリナーに停泊させたポーナム31の船内で家族や友人とのひとときを楽しむのにも最適だ。

また、オプション設定の2つの操船支援システム、TDA（トヨタドライブアシスト）とTVAS（トヨタバーチャルアンカーシステム）もうれしい装備だ。

TDAは、ジョイスティックを動かすだけで、前後左右斜めに自由に船を動かせるため、難しい離着岸を安全でスムーズに行える。

そして、TVASは、コンピュータが、位置、風、潮流を判断し、自動制御により、船体の位置や方向を保持するため、快適なマリネレジャーを楽しめる。

この2つはすでにポーナム35に搭載されているので、ご存知の方も多いただろう。

これらを装着することで、ポーナムの操船のしやすさをより多くのオーナーが享受できるようになる。とりわけTDAは、初めてクルーザーを保有する方にとって間違いなく大きなメリットになるはずだ。

実際にポーナム31に乗ってみたら、いったいどれほどの安定感とスピード感を味わうことができるのか。きつと多くの方がその性能に驚くに違いない！





## 津田 潤一

Junichi Tsuda

トヨタ自動車株式会社  
新事業統括部 マリン事業室  
トヨタマリン営業所 サービスチーフ

「ポーターナの点検をした日は、  
お客様と『安心』で繋がっている日だと実感します」

### 定期点検が一番重要

「クルマと違って海という大自然を相手にしますから、定期点検がとて重要なんです」

津田氏が力を込めて話すのは、予防の重要性だ。サービススタッフというと、何かあったときに対応に来てくれる人というイメージがあるが、ことトヨタマリンに関してはそれは当てはまらない。いや、むしろ真逆といってもいい。

定期点検の重要性を指摘するのは、海の楽しさも厳しさも知り尽くしているからに他ならない。口には

スの啓発を行っているんです」

今でさえ、トヨタマリンのサービスに対する信頼は厚いのだが、そこに安住せず、さらに安心安全を求めているトヨタマリンの飽くなきチャレンジ精神がとても印象的だった。

### 点検した日はそのことが 気になって仕方がない

「お客様のポーターナを点検するとき、常に細部に至るまで最新の注意を払って行っています。それでも、やっぱり点検を行った日は一日中そのポーターナが気になって仕方がないですね」

少し苦笑しながら答えてくれた。「でも、大変じゃないですか？」と尋ねると、津田氏は「大変ですけど、それ以上にお客様の安心に繋がっているんだという喜びの方が大

きいですね」と笑顔で話してくれた。

「実家がボートの整備会社という環境だったので、自然とものづくりや整備に興味を持ち、今の仕事に就きました。日々ひとつひとつの修理・整備などを確実に行うことが、少しずつですが、経験や技術の向上に繋がっていると思います」

津田氏がここまでサービスに対する思い入れが強いのは、幼いころから整備風景が身近にあり、メンテナンスや整備の重要性が自然と体についていたことが大きな理由のひとつのようだ。

常に自分の愛艇のことを考えてくれる津田氏のような存在は、ポーターナオーナーにとっても貴重だと思う。こんなサービススタッフに愛艇をメンテナンスしてもらえると知ったら、他のボートオーナーはきっと羨ましいと思うに違いない。

トヨタマリンスタッフに聞く！

快適なマリンライフを支える、  
定期点検・ビフォーサービス

Vol.3



最新の点検機器によるメンテナンス風景。トヨタマリンでは、最新技術と豊富な経験によって確実な整備が行われている。

## ピフォーサーサービスと プラスαの修理

「定期点検は言うならばピフォーサーサービスですね。お客様のクルーザーを常に最良の状態に保ち、心行くまでマリナライフを楽しんでいただくためには、定期点検はとても重要なことです。でもしっかりとできていないメーカーは意外と少ない。だからこそトヨタマリンでは強く意識して取り組んでいるんです！」

お客様に満足いただくために一切の妥協を許さないという姿勢が、トヨタマリンに対する信頼を生んでいる。

そんな西村氏が心がけていることは単にポーターオーナーから要請があった修理箇所を完璧に直すというだけではない。修理箇所以外のことも、ポーターオーナーにとって有益なアドバイスはきちんとするというプラスαの修理だ。

ポーターオーナーから「トヨタは親切だよな」という意見が出てくるのも当然だ。

他のアドバイスをを行うのは、もち

「アフターサービスというよりも  
ピフォーサーサービスという意識で臨んでいます」

中部地区のポーターオーナーのマリナライフを陰から支えるサービススタッフの西村氏と津田氏。2人が口々に話していたのが「定期点検」の重要性だ。一見するとごく当たり前のことのように思える「定期点検」だが、そこに対するこだわりこそがトヨタマリンの強みなのだと改めて痛感したインタビューだった。

### 自ら習得する姿勢が大切

そんな西村氏が心がけていることは単にポーターオーナーから要請があった修理箇所を完璧に直すというだけではない。修理箇所以外のことも、ポーターオーナーにとって有益なアドバイスはきちんとするというプラスαの修理だ。

そんな西村氏が心がけていることは単にポーターオーナーから要請があった修理箇所を完璧に直すというだけではない。修理箇所以外のことも、ポーターオーナーにとって有益なアドバイスはきちんとするというプラスαの修理だ。

35年以上サービススタッフとして仕事に取り組んできた西村氏は、今でも第一線でおお客様のポーターの安全を支えながら、後進を育成する立場にもある。

「縁の下の力持ちになれないとダメですね。それに、修理の内容はひとつひとつ違うから、自分でひとつひとつ経験して自分で習得するという姿勢がとても大切なんです」

情報を共有し、新艇へも「こういう設計にした方がいいのではないかな」などの情報をフィードバック

することは確かな強みではあるのだが、一艇一艇としっかり向き合っていくのが基本的なことながらも重要なのだと改めて気づかされた。そして、この西村氏の理念は、間違いなく津田氏のような後進の大きな糧になっているはずだ。



## 西村 一吉

Kazuyoshi Nishimura

トヨタ自動車株式会社  
新事業統括部 マリナ事業室  
トヨタマリン営業所 サービスチーフ



最新の点検機器類。

# マリナーナ 探訪

和歌山  
マリナーナシティ  
ヨット倶楽部



## 大阪から70分 出港すれば 一気に外海へ

大阪中心部から車で70分、関空からなら40分。出港すればそこはすぐに好漁場。カジキが釣れる海域までわずか90分。西日本屈指のマリナーナ設備とホテル、レストラン、温泉、テーマパークなど家族で楽しめる施設と一体化したまさにマリナーナシティ。

### 目の前にすぐ好漁場 釣り好きには 最高のロケーション

「105・6kgのカジキが昨日も上がりました。」と語る、支配人の船橋氏。6月14日は毎年行われているマリナーナイベントの一つ「カジキ大会」。マリナーナの各ポートが2日間かけてカジキの大物を狙う。今回の大物は2本。そのうち1本は105・6kg。大物カジキは捌くのも一苦労だが、ここは隣接するフィッシャーマンズワーフ「黒潮市場」の料理人があつという間に捌くのを手伝ってくれる。捌かれたカジキはオーナーさんへ



# Divide

Vol.4



重厚感ある広々としたマリナーロビー



マリナーを一望できるガーデンプール

## 家族が喜ぶ 充実の周辺施設が マリナーに併設

マリナーに隣接する「ロイヤルパインズホテル」は、ホテルの目の前にポンツーンがあり、船を近くに停泊させることができる。チャペルやレストラン、ガーデンプールなどを持つ美しいリゾートホテルだ。併設するテーマパーク「ポルトヨーロッパ」はフランス、イタリア、スペインの街並みを本格的に再現した、子供が喜ぶアトラクション満載の遊園地。フィッシャーマンズワーフ（観光魚市場）「黒潮市場」では地元・和歌山の近海物など新鮮な魚介類が豊富に販売されている。屋外には約1,800席のテラス席があり、市場内の新鮮な海の幸をその場でBBQで食べることができる。



が持つ帰るのももちろん可能だが、パーティでマリナーの仲間に振る舞われることも多い。その他、季節の釣り大会も実施しておりオーナーさんの釣果を天ぶらやBBQで楽し

んだり、さらには寿司シャリを用意して寿司パーティなど楽しみ方もいろいろ。日本にはマリナーは数多くあるが、こんなにも充実した設備や周辺施設と一体化したマリナーはそう多

くはない。「海鮮市場」「ホテル」「レストラン」「温泉」「テーマパーク」「釣り公園」「マンスヨ」。それらが一体化して一つのマリナーシティを形成している。マリナーシティを形成している。艇置会員はそれら施設を半額から10%割引などで使うことが可能。毎回釣りに付き合っ

くれる家族は少ない中、こんなマリナーならば、子供はテーマパーク、ママは海鮮市場や温泉など、みんなで楽しめるので、パパも誘いやすいのでは？

夏に釣りシーズンをだけ艇置するプランも

ゲスト艇も見物のため多数来港する毎年10回以上行われる花火ショー。季節の音楽に合わせて打ち上げられる花火を船で沖から見るのは格別。トヨタのポーターが現在10隻艇置されているというこのマリナー。ゲスト艇の停泊料金はなんと平日1000円、休日2000円（ただし1週間以内）。また、このマリナーには月単位で3ヶ月以上、艇置できるというプランもある。料金は35ftで1ヶ月14万8000円。夏の釣りのシーズンだけここに船を置くということが可能。ちなみにこのマリナー、現在すべてのクラスで、若干空きがある。最大60ftまで受け入れ可能で、年間艇置料金は35ftで130万円。カタルラン（双胴艇）も10%UPで置かせてくれるというからカタルランオーナーにはとても嬉しいマリナーだ。

和歌山マリナーシティヨット倶楽部  
〒641-0014  
和歌山県和歌山市毛見1516  
TEL:073-448-0033  
Web: <http://www.marinacity.com/yacht/>



和歌山マリナーシティヨット倶楽部 支配人 船橋司氏。学生の時、船舶免許取得。開業時から和歌山マリナーシティに関わる。



# Marina

# 素敵なマリナーライフの第一歩 クルーザーの共同所有とは？



## まずは共同所有から

クルーザーの所有形態は大きく分けて個人所有と共同所有の2つがある。マリナーライフに関心が高い方の中には、「いつかは個人所有をしたい」と考えている方も多いのではないだろうか。

しかし、実際はなかなか難しい面もある。

そこでオススメなのが「共同所有」だ。共同所有では、1艇のクルーザーに対して複数の方が出資するという形を取るため、当然複数のオーナーが存在する。

最大のメリットは、やはりコストだろう。個人所有にくらべて、人数分の1の費用で済むのだから、より多くの方がクルーザーを保有する機会を得ることができる。

もうひとつのメリットは、一緒にマリナーライフを楽しむ仲間が増えるということ。ひとりのクルージングも乙なものだが、やはり気の合う仲間とクルージングやフィッシングができるのは共同所有ならではの醍醐味だ。

## しっかりとした「ルール作り」を！

もちろん、注意しなくてはいけない点もある。

ひとつはパートナー選び。当たり前だが人が違えば考え方も違う。何となく気が合う、気が合わないということもあるはずだ。共同所有してくれるなら誰でもよいということでは、後々いらぬトラブルを招きかねない。

だからこそ、パートナーを選ぶときは慎重に、納得のいくまで考えた上で決めることが重要だ。

もうひとつは、使いたいときに使えないことがあるということ。常に共同オーナー同士だけで利用する場合は心配いらないかもしれないが、オーナーがそれぞれ自身の家族や友人とクルーザーを利用するような場合は、当然他のオーナーはクルーザーに乗れない。夏のマリンシーズならなおさらだろう。

そこで重要になってくるのが、共同オーナー同士のしっかりとした「ルール作り」である。たとえば、利用スケジュールを立てたり、帰港後の船内の後片付けや燃料の補給などをマニュアル化したリ。

お互いが共通のルールに基づいて、思いやりを持って行動をすることが、トラブルなく充実したマリナーライフを楽しむひとつのコツである。

RIVIERA ZUSHI MARINA  
— リビエラ逗子マリーナ —



ZUSHI  
E139°33'  
N35°18'



株式会社リビエラリゾート 営業部長

伊藤隆善

Takayoshi Ito

## 船がある人生を楽しむ お手伝いをする

「船を買うのではない。船のある人生を買っているのだ。」  
クルーザーオーナーの方々は口をそろえる。だとすればマリーナ選びは  
単なる置き場所選びでは決してないはず。

船は  
買ったあとこそ大切。  
船で何を楽しむのか？

「船は実は買ってからが重要」と語る逗子マリーナの伊藤氏。「船はあくまで手段。その船を使ってどんな時間を過ごせるのか？その最高のお手伝いができるのが逗子マリーナです」。クルーザーは高価な買い物。買うときはつい値引きに目がいつつしまいがちになるが、せっかく買っても、楽しめなくては意味が無い。逗子マリーナでは免許を取るお手伝いから始まって操船レッスン、クルーズプランの作成、ドライバークループ派遣、釣りインストラクター派遣、ケータリング、行き先のゴルフ場やホテル・レストランの手配、船の出港準備、帰港後のクリーニング、整備メンテナンス・点検など全てをワンストップで提供。コンシェルジュサービスで細かい企画や手配は全ておまかせ。マリーナに行けば船はエンジンを掛けて待っていてくれる。着岸すれば片付け無しでそのまま車で帰宅。そんな、マリナライフも可能だ。また、逗子マリーナでは様々なレースや釣り大会も開催され、参加者からそのパーティのクオリティの高さには定評がある。その秘密はやはり、自社グループで自前のバンケットを持ち、高い品質の料理とサービスはもちろん、



## マリーナ紹介

# USAリビエラ カントリークラブで 有名な リビエラグループ



接客業の軸となっているのはロサンゼルスにあるリビエラカントリークラブ。世界のゴルフ場BEST100選の上位に位置するゴルフ場だ。有名人が結婚式を挙げることで有名なので知っている人も多いだろう。リビエラ逗子マリーナもこのゴルフ場の接客を基本に厳しい教育のもとサービスを提供している。

リビエラ逗子マリーナは日本を代表する鎌倉逗子のリゾートエリアにある。海に面したチャペルで有名な結婚式場やプール、テニスコート、リゾートマンションなど併設。七里ガ浜から江ノ島まで見渡せる全席オーシャンビューレストラン「グランブルー」は地元の超人気店。定期的にJAZZライブやマリンフェスなども開催しているので家族も退屈しない。船は最大66ftまでお預かり可能。水深も大潮でも2.5mまでOK。大きな船でも寄港可能なのでぜひ一度、見学に行ってみてはどうだろう。



小型ヨットから大型カタマラン(双胴艇)まで。富士山を背景に様々な船が並ぶ。



人気が高いというトヨタポーターは現在3隻保管中。



着艇時のクリーニングや定期メンテナンスもやってくれる年間プランもある。

### DEALER information

## リビエラ逗子マリーナ

- 〒249-0008 神奈川県逗子市小坪5-23-9
- 0467-23-2111
- <http://www.riviera-r.jp/zushi-marina/>

「トヨタのポーターは、海に出た時の安心感。他の船の追従を許さない」と語る伊藤氏。「初めてお買いになる方は、なかなかわからないかもしれませんが、FRPの船と比べて波を切る時のビリビリとした振動やバタバタ感がない。これがアルミハルの力なのかなあと」。海に出る以上、天気が急に変わることもある。「船はある意味命をあずけるものですので少し荒れた時などは伊藤氏おすすめの数1隻だ。

ポーターは海に出た時の安心感がまったく違う

釣りやレースのことを理解したスタッフがバーティを企画運営していることも大きい。ここに船を置けばいろいろな大会にも気軽に参加でき、他のマリーナとは一線を画した、質の高いマリンライフを味わうことが出来るだろう。

【発行人】  
トヨタ自動車株式会社

【編集長】  
増渕 達也

【編集】  
宇賀持 一弘

【フォトグラファー】  
中村 俊哉  
(P.4-5, 18-21, 22-25, 30, 32-35, 46-47, 50)  
矢部 洋一 (P.3, 18-21, 30)

【アートディレクション】  
増渕 達也  
中村 謙治

【エディトリアルデザイン】  
中村 謙治  
宇賀持 一弘

【制作協力】  
株式会社ネクスト・ワン  
宮崎 秀敏 (P.44-45, 48-49)

株式会社カマクラワークス  
刀根 幸二 (P.44-45, 48-49)

【写真提供】  
レーシングドライバー 木下 隆之 (P.6-9)

Lexus International (P.3, 10-13)

レクサス渋谷 (P.22-25)

【取材協力先】  
レーシングドライバー 木下 隆之 (P.6-9)

INTERSECT BY LEXUS - TOKYO (P.6-13)  
〒107-0062 東京都港区南青山 4-21-26  
TEL : 03-6447-1540  
<http://www.lexus-int.com/jp/intersect/tokyo/>

PROMAX MARINE LIMITED  
DIRECTOR マイケル・リュウ (P.14-17)

レクサス渋谷 (P.22-25)  
〒153-0042 目黒区青葉台 3-1-1  
TEL : 03-3464-0511

株式会社 JOB  
代表取締役社長 神谷 匠 (P.36-37)

内藤 教恵 (P.38-39)

和歌山マリーナシティヨット倶楽部 (P.44-45)  
〒641-0014 和歌山県毛見 1516  
(和歌山マリーナシティ内)  
TEL : 073-448-0033  
<http://www.marinacity.com/yacht/>

リビエラリゾート (P.48-49)  
〒249-0008 神奈川県逗子市小坪 5-23-9  
TEL : 0467-23-1000  
<http://www.riviera-r.jp/>

NTP マリーナ高浜 (P.36-37, 42-43)  
〒444-1325 愛知県高浜市青木町 1-1  
TEL : 0566-54-5300  
<http://www.ntp.co.jp/marina/takahama/>

ラグナマリーナ (P.38-39, 42-43)  
〒443-0014 愛知県蒲郡市海陽町 2-1  
TEL : 0533-58-2800  
<http://www.laguna-gamagori.co.jp/marina/>

# Editor's VOICE

オーシャン・スタイルも早くも第3号をお届けすることができました。これもひとえにご愛読いただいている読者の皆様、取材にご協力いただいている多くの方々のおかげです。今号では、創刊号、第2号よりもさらにさまざまな側面からボートやマリライフの魅力をお伝えしています。

イベントレポートひとつ取っても、試乗会だけでなく、国内最大級のボートショー「ジャパンインターナショナルボートショー2014」や、本誌初の海外取材となる「香港ゴールドコーストボートショー」など、幅広い視点を取りれています。インタビューも、オーシャン・スタイルの恒例企画となっているボートオーナーやトヨタマリンスタッフに加え、豊田社長とも親交の深い

レーシングドライバーの木下隆之氏にもインタビューをさせていただきました。クルマにもクルーザーにも長く親しまれている木下氏のお話は必見です！

また、南青山にあるインターセクトバイレクサス東京や、レクサス渋谷とのコラボレーションも見逃せません。どちらも本当に素晴らしい「おもてなし」のひとつで、まさにトヨタのグループ力がなければ実現できないイベントだったと思います。そして、いよいよ今秋には待ちに待ったトヨタマリンの最新艇が登場！ きっとより多くの方々にマリライフを楽しむ時間が広がっていくと思います。

編集長 増渕 達也

2014年8月





# Casual Cruising



【ホワイト Mサイズ】

【ネイビー Lサイズ】



フック部分にはクリートを使用

クリートセラーバッグ・ゴート革  
ホワイト/ネイビー 【Mサイズ】 ¥74,000 (+税) / 【Lサイズ】 ¥78,000 (+税)



*Anche in inverno  
anche in estate*

## ムータ・マリン

muta MARINE 愛知県常滑市りんくう町3-6-1 NTPマリーナりんくう マリーンプラザ内 / 0569-38-1266  
muta TOKYO 東京都港区麻布十番1-5-9 / 03-5770-4498 muta PALAZZO 東京都千代田区丸の内1-1-1 パレスホテル東京B1F / 03-5220-4498 muta Salone 名古屋市中区栄3-6-1 ラシック 6F / 052-259-6585  
muta moda 名古屋市名東区若葉台1515 / 052-777-7373 muta FUKUOKA 福岡市中央区天神2-10-3 VIORO 4F / 092-723-0018 muta SUD 鹿児島市呉服町6-5 マルヤガーデンズ 1F / 099-293-0018  
Fratelli Cassida with muta 大阪市浪速区難波中2-10-70 なんばパークス 3F / 06-6634-8383



## THE PREMIUM OF PREMIUMS

さらに深化した美しさ。さらに進化した快適性。

PONAM-35swは、従来のドライブアシストにバーチャルアンカーシステムを追加、  
トヨタマリン独自の操船支援システムをさらに充実させています。

インテリアには木目調デザインを採用するなど、すべてにこだわり抜きました。

あなたを待っているのは、さらなる上質な「海の遊び」です。

35  
SW

Premium Cruiser  
PONAM-35 SW



試乗会の開催日などのご案内は、トヨタマリンホームページまたは、フリーダイヤルにてお問い合わせください。

トヨタ自動車株式会社 新事業統括部 トヨタマリン営業所 〒443-0014 愛知県蒲郡市海陽町2丁目1番地  0120-532-451 [www.toyota.co.jp/marine/](http://www.toyota.co.jp/marine/)

※写真は撮影用小物、オプションパーツ等を含む特別仕様艇です。